

短冊に幸せ願う

背割堤地区「納涼七夕まつり」

8月7日～9日の3日間、淀川河川公園背割堤地区で「納涼七夕まつり」が開催され、市内外からの約2900人の来場者でにぎわいました。



ライトアップされた園路を歩く来場者たち

同まつりは、淀川三川合流域の魅力を知ってもらおうと、市内NPOや市などで構成される七夕まつり等ふれあい交流実行委員会が主催しました。
期間中は、男山第三中学校、久御山中学校の吹奏楽部による演奏や、ジャグリング日本チャンピオンのリンスポン上田さんによるパフォーマンス、人気飲食店が集まったマルシェ、Eポ



ジャグリングパフォーマンスに拍手を送る来場者たち



笹に短冊を飾り付ける親子

トの運航など、さまざまなイベントを実施。
笹が飾り付けられた園路では、願い事記載所が設けられ、来場者たちは「家族がみんな元気で幸せに過ごせますように」など、思い思いの願いを込めた短冊を笹に結び付けていました。
また、日暮れからは、灯籠の光で園路をライトアップ。周りの木々や笹が淡いオレンジ色の光に包まれ、来場者たちはゆっくりと歩みを進めながら、幻想的な雰囲気味わっていました。

光るフィラメントを見つめる子どもたち



エジソンが八幡の竹で電球を発明したことになんぞフィラメント作りが8月5日、だんだんテラスで行われ、小学生約40人が竹の代わりにシャープペンシルの芯を使って実験を行いました。
この催しは、市民らが男山地域再生について考える男山やってみよう会議で、「子どもたちに夢を」をテーマにするメンバーが男山夢プロジェクトチームを発足させて企画。京都八幡高校科学部の協力も得て実施されました。

子どもたちは、シャープペンシルの芯を挟んだ2つのクリップに銅線をつなぎ、びんに入れて電球に見立てた装置を作製。乾電池につなぎ、芯が熱を帯びて赤く光ると、子どもたちは大きな歓声を上げていました。
また、八幡にまつわるクイズの出題や、八幡産の茶葉を使った水出し紅茶の振る舞いなどもあり、子どもたちは楽しみながら自分たちのまちのことも学んでいました。
三好美空さん(9)は「シャープペンシルの芯が光ってすごかった」と笑顔で話していました。

気分は エジソン フィラメント作りに挑戦

まちの話題

このページでは、市民の皆さんの活躍やまちの話題などを紹介しています。身近な話題や、広報紙についての意見を、秘書広報課までお寄せください。

やわたとやわた 文化交流

愛媛・八幡浜市から中学生28人

世界で初めて飛行原理を発見した二宮忠八の生まれ故郷・愛媛県八幡浜市の中学生28人が8月19日～21日の3日間、八幡市を訪れ、市内の中学生20人と交流しました。

忠八が生まれた八幡浜市と、飛行器の研究・製作に打ち込み、晩年を過ごした八幡市。両市が「八幡」という文字だけでなく、読みも一致している縁で、平成25年からこの交流が始まり、今回で3回目。中学生が1年ごとに交互に訪問し合い、互いの市の魅力や歴史、文化を学びながら交流を深めています。

期間中、中学生たちは忠八が創建した飛行神社や石清水八幡宮などを見学したり、四季彩館で夕食を食べながら打ち解け合ったりしました。

また、2日目の昼食では、八幡市発祥の松花堂弁当を堪能。市内の中学生が考案したタケノコを使ったハンバーグや、京都吉兆の村上寛治さんが骨切りを披露したハモのお吸い物などを、みんなでおいしそうにいただいでいました。



飛行神社を見学する中学生たち

恐竜 うまく描けたよ

8月8日、山柴公民館で子ども恐竜教室が行われ、親子連れら約70人が恐竜の復元画作成に挑戦しました。

この教室は、恐竜の生息していた時代に思いをはせてもらおうと同公民館が企画。講師には、大阪市立大学恐竜愛好会ジェラシックパー君のメンバーを招きました。

はじめに、子どもたちは講師から恐竜の色は推測であることや、研究や新たな発掘を続



恐竜の復元画作成に取り組む子どもたち

ける中で恐竜の姿が明らかになっていくことなどを勉強。

その後、ティラノサウルスやトリケラトプスなど、4種類の恐竜の骨格図から1枚を選んで、復元画の作成に取り組みました。

子どもたちは、骨格図の上にトレース用紙を重ね、肉のついた恐竜の輪郭の絵を作成。そこに、現代に生息している爬虫類などの生物を参考に、耳や鼻の位置などを決めて描いていき、自由に色を塗って、自分だけの恐竜の復元画を完成させていました。

秦文詠くん(7)は「恐竜の絵が描けて楽しかった。顔もうまく描けた」と元気に話していました。